

超党派で瀬戸内海再生

今国会での法改正目指す

議連衣替え

近畿、中国、四国地方の国会議員が15日、東京・永田町の参院議員会館で、超党派として初めてとなる「瀬戸内海再生議員連盟」の総会を開いた。水産資源が豊かな海の再生を目指し、議員立法をまとめる。昨年の通常国会で自民、公明が「瀬戸内海環境保全特別措置法」改正案を提出したが、臨時国会で廃案に。今回、民主や維新の党にも広げ、今国会中の成立を目指す。



瀬戸内再生を目指し、超党派に衣替えした議員連盟の総会＝東京・永田町の参院議員会館

かつて赤潮が頻発した瀬戸内海は、1973年の環境保全臨時措置法制定後、水質が改善した。一方で

ンや窒素などの栄養塩類も減り、漁獲高はピーク時の3分の1に、ノリの色落ちも深刻になった。

自公の法案は、水質規制だけでなく、水産資源を確保するため、藻場や干潟を保全する「一里海」を目指し、府県が実情に応じた計画を立てるといったことだ

総会には約120人が出席。事務局長の末

松信介参院議員(自民、兵庫選挙区)は「自公案はあるが、柔軟に対応し、一日も早い法案成立を目指したい」と話した。(小西博美)

神戸新聞

2015年4月16日